

ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成28年12月1日発行 通巻30号(年2回発行)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222
<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

第16回オープンフォーラム 「農林水産学分野における国際キャリア アップを目指して—学生が自ら取り 組むキャリアパスへのアプローチ—」

10月29日(土)に野依記念学術交流館において、第16回オープンフォーラム『農林水産学分野における国際キャリアアップを目指して—学生が自ら取り組むキャリアパスへのアプローチ—』を開催しました。人口減少と超高齢化が進む中で、創造的で活力のある若い世代の育成の重要性が指摘されていますが、2004年以降、海外へ留学する日本人学生の数は減少に転じ、現在は20年前と同程度となっています。しかしながら、社会のグローバル化は加速しており、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる「グローバル人材」を継続的に育てていくことがより一層重要となっています。このような状況を背景として、過去2回のフォーラムでは教員を対象として、2012年に「農林水産研究分野で国際的に活躍できる日本人研究者の育成の現状と課題」、2013年には「世界で活躍できるグローバル農学人材の育成に向けた大学の取組みの方向性—多様なキャリアパスの開拓に向けた現状と課題—」というテーマでのオープンフォーラムを開催し、教育機関等が組織的に取り組むべき国際教育プログラムなどについて議論しました。

そこで、本年度のオープンセミナーは主な対象を学生として開催しました。フォーラム前半の講演では、株田文博氏(政策研究大学院大学教授)に「農

学分野の国際フィールド：国際交渉・協力担当職員、外交官、国際機関職員等の経験を通じて」、田中理氏(JICA農村開発部企画役)に「国際開発協力の戦略策定から成果実現まで担うには」、加藤洋一郎氏(国際稲研究所作物環境科学部国際農業研究員)に「国際稲研究所(IRRI)で働くということ」、北尾理恵氏(㈱三祐コンサルタンツ海外事業本部技術第1部技術課副参事)には「農業・農村開発コンサルタントになるためには」と題したご講演をいただきました。お話しの中で、講師の方々ご自身のキャリアのスタート時点における目標とステップアップの経過をご紹介いただくとともに、現在のステージの分析についてもお聞かせいただきました。

講演の後には、講師を囲んでのグループディスカッションを行い、講師の方々ご自身の分野でキャリアアップを目指す後進へのアドバイスをどのように考えているか、あるいは他のセクターで国際関係事業に従事しようとする方々に望むことなどをお聞かせいただき、グローバル人材のための要件やキャリアアップのスタートラインに立つ上で備えておくべきスキルなどについての情報を共有しました。今回のセミナーでは、近隣県からだけでなく、遠くは関東や四国からの参加も得て、学生が自ら取り組むべき具体的なキャリアパスへのアプローチについて熱心な議論が展開されました。(江原 宏)



講師を囲んだグループディスカッションの様子



参加者揃っての集合写真

平成28年度JICA課題別研修 「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」

本年は第2フェーズ3年間の2年目として、6月29日～8月5日、JISNAS会員大学の協力を得て実施されました。サブサハラアフリカ諸国のうち12ヶ国より15名が来日し、コア研修として稲作に関わる基礎的な知識や技術、PCM手法、日本における稲作振興のための技術開発と政策の関係等、名古屋大学フィールド教育科学センター東郷フィールドにて圃場の見学、稲作の機械化に関する講義と実習を行いました。また、愛知県新城市の四谷千枚田を見学し、我が国の伝統的な棚田に触れることもできました。その後、全国の7つの協力大学に移動し、受入教員の指導を受けながら専門性を高めた上で、締めくくりとして研究を効果的に進めるためのリサーチプラン立案に関するワークショップとリサーチプラン発表会を開催し、JICA筑波所管の別のアフリカ稲作研修も交え、協力大学の教員とともに活発な議論を展開しました。引き続き、研修員と教員のネットワーク、各国のCARD関係者も含めたコンソーシアムを構築し、研修員のフォローアップ、日本への留学や受入教員による現地指導、日本とアフリカの共同研究等も視野に入れた活動を推進していきたいと考えています。(江原 宏)

参加国：ブルンジ、コンゴ民主共和国、エチオピア、ガーナ、ケニア、モザンビーク、ナイジェリア、シエラレオネ、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア

協力大学：岩手大学農学部、山形大学農学部、茨城大学農学、島根大学生物資源科学部、山口大学農学部、宮崎大学農学部、鹿児島大学農学部、名古屋大学大学院生命農学研究科



JICA筑波国際センターでの修了式

国際シンポジウム参加報告

2016年7月23日にインドネシア・マカッサルのハサヌディン大学で開催された国際サゴシンポジウム、10月25・26日にマレーシア・クチンのマレーシア・サラワク大学で開催された第3回ASEANサゴシンポジウム、11月9・10日にインドネシア・ボゴールの農業研究所で開催されたナショナルサゴセミナー・ワークショップ2016にサゴヤシ学会会長として出席しました。国際シンポジウムでは、サゴヤシ学会設立より24年余にわたる取り組みから、2013年にFAOの始動の下で設置されたアジア太平洋サゴネットワーク(SNAP)の活動などの紹介、ASEANシンポジウムではサゴヤシ学会とマレーシアの大学とのMOUや多国間での研究教育連携について、また、インドネシアのセミナーでは泥炭開発などに関わる産官学地域の諸機関・団体と国際連携についての意見交換を行うことができました。(江原 宏)



国際サゴシンポジウムにおける招待講演者、スラウェシの4首長と在マカッサル日本領事事務所長

博士号の取得、そして更なる夢に向かって

ワイナイナ・コーネリアス・ムバティ

2013年10月に、JST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)「テラーモード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」枠の国費留学生として名古屋大学大学院生命農学研究科へ入学し、3年を経て、この9月に博士号を取得しました。この間、一貫してイネの耐寒性に関する研究を行い、イネの栽培・育種に関わる科学技術を学ぶとともに、ケニア高原地帯の低温に耐えうる有望系統の育成を成し遂げることができました。私の留学を支えて頂きました農国センター、生命農学研究科、生物機能開発利用研究センターの教職員、院生の皆さま、および愛知県農業総合試験場の研究者の方々に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。博士号の取得は、今後の私の研究者・教育者人生にとってこの上もなく偉大なことであり、ケニア、さらにはアフリカの食料問題解決を牽引するイネ研究の第一人者となるべく、これからも一生懸命努力します。今後も農国センターをはじめとする日本との協力関係のもと、ケニアでのイネ開発研究センターの設立に向け、大いに貢献できるよう邁進していきます！



略歴 1983年ケニア生まれ。2006年ジョモケニヤッタ農工大学卒業、同年にジョモケニヤッタ農工大学Assistant lecturerに採用される。2012年名古屋大学大学院生命農学研究科修士課程修了、2016年名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程修了、博士(農学)を取得し2016年よりLecturer。

客員教授紹介

内山 智裕 客員准教授(協力ネットワーク開発研究領域)
(任期:2016年7月~2017年3月)



2016年7月より、客員准教授として「アジア太平洋地域におけるサゴ資源の利活用に関する研究」を担当し、農業経営学の見地から、インドネシアを主なフィールドとしてサゴ資源の生産・流通の現場に赴き、生産コストや付加価値構造などの社会経済分析を進めております。その他、これまでに英国・米国・カナダなどの先進国における農業の担い手問題(新規参入、経営継承およびその支援政策)、韓国・タイなどのアジア地域における環境保全型農業の経営的評価などの調査研究を進めてきました。これらの調査経験を活かし、農国センターのスタッフの皆様の教育研究活動の一助となれればと考えております。

略歴 1972年生まれ。1996年東京大学農学部卒、2002年同大学院博士課程修了(博士(農学)取得)。日本学術振興会特別研究員、英国プリマス大学客員研究員、三重大学助教・准教授、東京農業大学准教授などを経て、2016年10月より東京農業大学教授。

ルジト・アグス・スウィグニョ 外国人客員教授(協力ネットワーク開発研究領域)
(任期:2016年10月3日~2016年12月22日)



客員教授として農国センターで活動する機会をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。在任中、学内での研究教育のみならず、学外の協力機関との活動など多くの経験を積むことが出来ました。インドネシアは2億5千万の人口を抱え、その数は日々増加しており、食料確保のため、2025年までに新たな耕地730万haを新たに開く必要があります。そのために、耕作に適さない土地の開発を行なうことが急務となっており、これまで名古屋大学をはじめとする日本の大学と共に、洪水多発地域における稲作の安定化に向けた抵抗性品種の育成と栽培技術の開発に取り組んできました。今後も、このような学術的な協力活動の振興を通じて、農村部の人々、とりわけ小規模な農家の人々の生活が向上するような豊かな社会の実現に貢献していきたいと思っております。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

略歴 1962年生まれ。1984年ボゴール農科大学卒業、1990年琉球大学大学院修士課程修了、1993年岡山大学大学院博士課程修了(博士(農学)取得)。1985年スリウィジャヤ大学農学部講師、2003年同大学大学院長(~2005年)・同大学副学長(学術担当)(~2008年)、2014年同大学農学部教授。

研修員紹介

SATREPSカウンターパート研修に参加して サイモン・ムゴ・ジンジュ



私は、2016年4月26日から9月30日まで、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)「テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」のカウンターパート研修に参加する機会をいただきました。名古屋大学農学国際教育協力研究センターにおいては、イネの耐塩性や低土壌水分条件適応性に関する研究に取り組み、生育指標の調査、生理活性状態の測定、遺伝子解析、データ解析方法などに関する技術を高めることができました。また、毎週行われる研究室のセミナーにおいては、議論を通して知識を深めることが出来ました。日本作物学会第242回講演会にも参加し、最新の研究情報を得ることが出来ました。私は、今回の研修によって得られた知識と技術を今後の研究に活用すると共に、ケニアの若手の研究者に伝えて行きたいと考えています。研修の機会を提供してくださったケニア農畜産業研究機構、国際協力機構、科学技術振興機構および名古屋大学の皆様に深く感謝いたします。

略歴 1961年生まれ。2011年ケニヤッタ大学理学部卒業。2016年同大学院修士課程修了。1982年にケニア農業研究所(現ケニア農畜産業研究機構)技術補佐員として採用され、上級技術補佐員、技術職員を経て、2011年より研究員。

AAACUシンポジウム: Towards Sustainable World: The Challenges of the Sustainable Development Goals (SDGs) for AAACU in the Next Decade

アジア農科系大学連合 (AAACU) はアジアの22大学の農学部が加盟する組織で、昨年10月13~14日に東京農業大学において、国際シンポジウムと第21回総会を開催しました。志和地東京農業大学大学院農学研究科委員長の基調講演に続き、江原農国センター教授 (JISNAS事務局長) がJISNASの取り組みを紹介し、AAACUとの連携を含めた、農学分野におけるネットワーク形成の重要性について議論しました。

総会では、新会長にTulinピサヤ国立大学長が選出され、川北名古屋大学大学院生命農学研究科長が、第2副会長に選ばれ、次々回(2020年)の大会を名古屋大学で開催することとなりました。

(山内 章)



新役員の就任式 (2016年10月14日、東京農業大学)。
(左から3番目がTulin会長、5番目が川北副会長)

第57回名大祭研究公開セミナーにおける報告

農学国際教育協力研究センター (ICCAE) は、6月5日(日)、名古屋大学IB電子情報館011講義室において、57回名大祭研究公開セミナーを兼ねた2016年度第2回オープンセミナーを開催しました。今回のセミナーでは、ICCAEの元研究員で、現在、信州大学農学部国際農学教育研究センター・副センター長を務める浜野充講師が「開発途上国の農村における課題解決を目指した実践的研究—カンボジアの米蒸留酒の品質向上—」と題する講演を行ないました。浜野講師は、国際協力の実務と課題解決を導くアクションリサーチ手法について、カンボジアの農村で伝統的に営まれている米蒸留酒造における技術改善と経営向上を事例にして、一般の来場者にも分かりやすく解説を行ないました。講演後には、国際協力やカンボジアの農業と開発に関心を持つ多数の参加者との間で活発な質疑応答が行われ、盛況なセミナーとなりました。(槇原大悟)



第2回オープンセミナーで講演する浜野講師

第5回JICA-JISNASフォーラム開催のお知らせ

農国センターが事務局を務める農学知的支援ネットワーク (JISNAS) では、2016年12月16日(金)に第5回JICA-JISNASフォーラム「持続可能な開発目標 (SDGs) の取り組み: SDGsに貢献する農業分野人材の育成に向けて」を、JICA横浜センター (セミナールーム「かもめ」) にて開催いたします。今回のフォーラムでは、ミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として2015年9月の国連サミットにて採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」を取り上げ、これに貢献しうる農業分野の人材育成への取り組みやその課題について議論します。詳細につきましては、JISNASホームページ等にてご案内いたします。

オープンセミナー (2016年6月~2016年11月)

| 回数 | 日時 | テーマ | 講師 | 所属 |
|---------------|----------------|--|-------|------------------------------|
| 2016年度 第2回 | 2016年 6月5日 | 開発途上国の農村における課題解決を目指した実践的研究 —カンボジアの米蒸留酒の品質向上— | 浜野 充 | 信州大学農学部国際農学教育研究センター副センター長/講師 |
| 第3回 | 2016年 7月12日 | タンザニア・環境劣化の最前線地域における循環型資源利用モデルの構築 | 伊谷 樹一 | 京都大学アフリカ地域研究資料センター副センター長/教授 |
| 第4回 | 2016年 9月30日 | 越境する米作り —ビジネス、生態系、技術と持続可能性— | 鴨下 顕彦 | 東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授 |